



希望の鐘 *The Bell of Hope*



The Y's Men's Club of Kawagoe

〒350-0046 川越市菅原町7-16

tel : 049-226-2491 fax : 049-226-2304

c/o Kawagoe YMCA、7-16 Sugawara-cho、Kawagoe、Saitama 350-0046 Japan

川越ワイズメンズクラブ会報

No. 18-11

5月号

発行 2017年5月17日

Chartered 1998

会長	吉野 勝三郎	クラブ会長主題	「東日本区大会を成功させよう！」
副会長	林 京二	国際会長主題	「Our Future Begins Today 私たちの未来は今日より始まる」
	松川 厚子		
会計	山崎 純子	アジア会長主題	「Respect Y's Movement ワイズ運動を尊重しよう」
書記	森下 千恵子	東日本区理事主題	「For the Future, Act Today 明日に向かって、今日動こう」
		関東東部部長主題	「組み合わせられ、結び合わされて、造り上げられてゆく」

5月

富は、天に積みなさい。そこでは、虫が食うことも、さび付くこともなく、また、盗人が忍び込むことも盗み出すこともない。(マタイによる福音書 6章20節)

Store up for yourselves treasures in heaven, where moths and vermin do not destroy, and where thieves do not break in and steal.(Matthew6-20)

2016年4月の統計(4月22日)

在籍12名 出席者10名 (うちメーキャップ2名) 出席率83%

5月例会のお知らせ

日時: 5月27日(土) 午後2:00~

場所: YMCA川越センター

区大会資料の袋詰めを主に、区大会の準備を行いますので、ぜひ出席してください。

4月例会報告

森下 千恵子

4月22日土曜日に川越クラブの例会を行いました。参加者は吉野会長、山崎さん、松川さん、牛村さん、鎌田さん、生川さん、河合さん、そして私、森下でした。

この日の卓話は、4月から川越YMCAの職員として頑張っている草地俊之さんにお話をいただきました。

草地さんはYMCAに来てまだ一年未満とのことです。「草地さん」という苗字、また、お若い草地さんがどうしてYMCAに来られたのか私たちも興味津々です。

草地さんから岡山県倉敷市の出身と紹介があると、

「倉敷〜！」メンバーの頭の中を白壁土蔵のなまこ壁と川の街並みや大原美術館のイメージが広がります。草地さんによるとさいたま市の旧大宮に同じお名前の歯医者さんが一軒だけあるそうで、やはり岡山出身らしいということです。珍しいお名前ですね。

さて、倉敷市出身の草地さん、大学を出られたのち出版関係のWeb-siteの編集のお仕事をしていました。そして7、8年すぎたころ東日本大震災がありました。福島県双葉町は草地さんのお母様の出身地で、ご親類も避難生活を余儀なくされる事態がおこり、草地さんも何かしなければという思いに駆られ教員免許を取ったということです。その後臨時採用で教職についたりしていた頃、発達障害の子供たちとの出会いがあり、埼玉YMCAの太田聡さんとの出会いがありで今日に至ったということです。

草地さんは機械類がお好きということで、オートバイが趣味で、前職も含めパソコンを使って表現するのが好きだそうです。音楽も好きで高校のときは合唱部に所属していたそうですが、クラシックのみならずシンセサイザーなどの電子音楽が好きというのも若い世代を感じます。

草地さんは、YMCAの放課後等デイサービス教室の子供たちとのふれあいを通していろんな可能性を感じているようです。今後の抱負としてYMCAの充実した屋外活動に知的なこと、例えば歴史や民俗学などを取り入れていきたいと語っていました。ぜひやってほしいと思いました。

歴史ある街並み、出身地、趣味、世代YMCAを通じた活動への思い。共通すること異なることの時間と空間が交差する和やかな卓話でした。

東京たんぽぽYサービスクラブ15周年記念

吉野 勝三郎

私は、5月13日に開催されたこの周年集會に、利根

川恵子メン・牛村永代メン・山崎純子メンと一緒に参加しました。130名が集う、盛大な会でした。

15年前、皆さんは何をしておられましたか？ 私は57歳で、定年後をどう過ごそうかと考えていた頃でした。このクラブは、その頃、東京YMCAが行っていたLiby（リビー）を支援することを主目的に、東日本区では初めて、女性だけで設立されました。Liby (Let it be at the YMCA Tokyo) は、いじめ、不登校など、さまざまな困難を抱える子ども、青年たちが“ありのまま”でいられる「居場所」を提供するプログラムです。川越でも、当時、東京YMCAでこのLibyを立ち上げて担当していた秋田さんを招いて話を聞いた記憶があります。それが“アンダンテ”に繋がり、今日の放課後等デイサービスに引き継がれていることを思うと、特別な感慨があります。

このクラブ設立当初から中心的な役割を果たして来られた、越智京子さんの閉会の挨拶は感動ものでした。彼女は、癌の手術を2回も受け、今ではその癌があちこちに転移し、担当医から、最早、追加の手術は出来ないとわれ、余命いくばくもないなどと弱気の発言をすると、傍で聞いていた身内から、“そんなことない！まだ生きられるから頑張って！”と檄が飛び場面がありました。最後に全員で“たんぼぼ”の歌を歌う時には、本人も渾身の力を振り絞って、持ち前の美声で歌っていました。立派な、「15周年記念誌」を頂いて来ましたので、後から回覧します。

私達の川越クラブは2018年、20周年を迎えます。当面は、直前に迫った、区大会をやり遂げることに全力を注いでいますが、周年事業をいつ、どのような形で行うかを検討する必要があると思いつつ、小雨の中を高田馬場駅に向かいました。



越智京子さんの閉会の挨拶（向かって右は、小原史奈子会長）

第18回東日本区大会実行委員会

松川厚子

5月10日ウエスタ川越にて午後19:00から行われました。会に先立ち18時からJTBと受付業務についての確認をしました。

ささ川から取締役総括本部長の比留間豊さんが来られ、ウエスタ川越と3者で晚餐会の打合せをしました。そのあと各担当からゴルフ、プログラムの最終チェック、聖日礼拝、販売ブースとアピールタイムの申し込み状況及び配置図についての説明や大会運営応援者の人員配置とタイムスケジュールの決定の報告がありました。それからエクスカージョンBをキャンセルすることを全員で確認しました。また会計が、予算案改訂版を用意しましたが、時間切れで協議できませんでした。

次回20日に舞台の運営についての詳細を決めることにして閉会しました。

YMCA 報告

火～土曜日まで放課後等デイサービス「YMCAクローバークラブ 川越」に通っている子ども達の数が48名となりました。

月に1度日曜日に行うグループ活動トースターの活動を含めると60名になります。クローバークラブでは、平日子どもの年齢や課題に応じて小集団グループを作り、ゲームや工作、課外活動を通して仲間とコミュニケーションを取り合いながら楽しさを共有し、人との関わり方を学びます。土曜日や学校休業日は、屋外にも積極的に出かけ、実際の社会体験を通して、「社会的経験の積み上げ」を行っています。今年度から毎週土曜日11時～16時に高校生クラスを行っています。毎回ランチを手作りしていますので、お時間のある方はぜひ食べにいらしてください。



6月はいよいよ

第20回東日本区大会です!